

# 枕草子

清少納言

## 五月ばかりなどに

五月ばかりなどに山里に歩く、いとをかし。草葉も水もいと青く見  
えわたりたるに、上はつれなくて、草生ひ茂りたるを、長々と、たた  
ざまに行けば、下はえならざりける水の、深くはあらねど、人などの  
歩むに、走りあがりたる、いとをかし。

左右にある垣にあるものの枝などの車の屋形などにさし入るを、急  
ぎてとらへて折らむとするほどに、ふと過ぎてはづれたること、いと  
口惜しけれ。<sup>3</sup>蓬の、車に押しひしがれたりけるが、輪の回りたるに、  
近ううちかかりたるものかし。

(第一〇七段)

<sup>1</sup>車 牛車。  
<sup>2</sup>屋形 牛車で人が乗る部分。

<sup>3</sup>蓬 キク科の多年草。山野に  
自生し、香りがある。

<sup>4</sup>輪 牛車の車輪。

